

大津企業景況調査報告書

(第99回)

令和4年10月～12月期 実績

令和5年 1月～3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和4年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社にオンライン並びに FAX による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
製造業	12社	9社	75.0%
卸売業	13社	7社	53.8%
小売業	25社	18社	72.0%
サービス業	31社	23社	74.2%
建設業	19社	14社	73.7%
合計	100社	71社	71.0%

3. 調査期間

調査対象期間は令和4年10月～12月とし、調査時点は令和4年12月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は全体で改善が進むも、製造業・建設業は悪化

令和4年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲7から今四半期は±0となり、改善が進んだ。業種別では、卸売業が前期の±0からさらに改善して+29となったほか、前期に大幅悪化で▲11となった小売業が今期は+17へと大幅改善した。一方で、製造業は▲20から▲33へ、建設業も±0から▲7へと悪化した。サービス業は▲5付近を足踏み状態となり、前期同様、業種により業況判断は明暗が分かれる状況となっている。

先行きの業況判断DIは、全体では今四半期の±0を来四半期も維持するとみている。製造業が今期の▲33から▲11へ、サービス業も▲4から±0に改善するとみている。一方で、今期、大幅に改善した卸売業は+29から+14へ、小売業は+17から+6へとプラス幅が縮小するとみており、先の見通しも業種により楽観と悲観が入り混じる状態となっている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では改善が進むも、業種により改善と悪化が分かれる

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、全体で改善が進んだ。新型コロナ感染の抑制と経済活動再開が進んだこともあり、卸売業で+29ポイント、小売業で+28ポイントの大幅な改善があった。一方で、原材料コスト等の増加に苦しむ製造業は13ポイント悪化し、▲20から▲33へ、採算が改善しない建設業も7ポイント悪化で、±0から▲7へとマイナスに転じた。

□ 売上DI（前年同期比）は、製造業、サービスを除いた業種で改善し、特に建設業で顕著

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の+4から今期は+13へと改善した。業種別では、卸売業が+50から+71へ、前期大幅悪化した建設業が▲27から+21へと大幅改善し、小売業も▲6から+17へと、プラスに転じた。一方で、製造業は+50から+11へとプラス幅が縮小し、サービス業も▲5から▲13へと悪化した。

□ 採算DI（前年同期比）は、小売業では改善も、他業種で小幅悪化もしくは足踏み状態

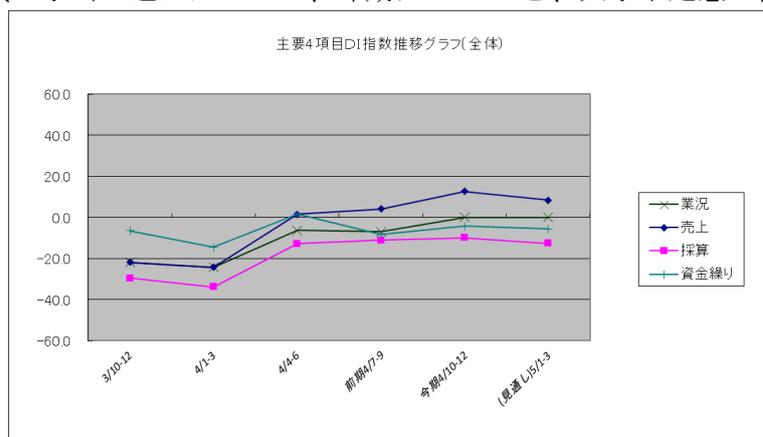
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲11から今期は▲10へと、原材料高の転嫁遅れ等で足踏み状態となっている。製造業では▲30から▲33へ、サービス業も▲5から▲13へと悪化し、卸売業は▲13から▲14へ、建設業は▲7を維持し、足踏み状態となっている。一方で、小売業は▲11から+6へと改善している。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として小幅改善も、卸売業や製造業では悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲8から今期は▲4へと小幅改善した。特に前期悪化した小売業が▲11から+11へと22ポイント改善し、建設業でも▲13から±0に改善した。一方で、卸売業では±0から▲29へと大幅悪化し、製造業は▲30から▲33へ、サービス業も+5から±0へと悪化している。業種によっては売上拡大による運転資金の確保で資金繰りに苦労している様子もうかがえる。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足感は緩和するも、建設業・サービス業は逼迫

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+33から今期は+30へと人手不足感は緩和しているものの、依然として建設業では+43、サービス業では+39と、高止まり状態となっている。一方で、前期に大幅逼迫で+63となった卸売業については、人員の手当が進んだせいも、今期は+14へと、人手不足感が緩和している。

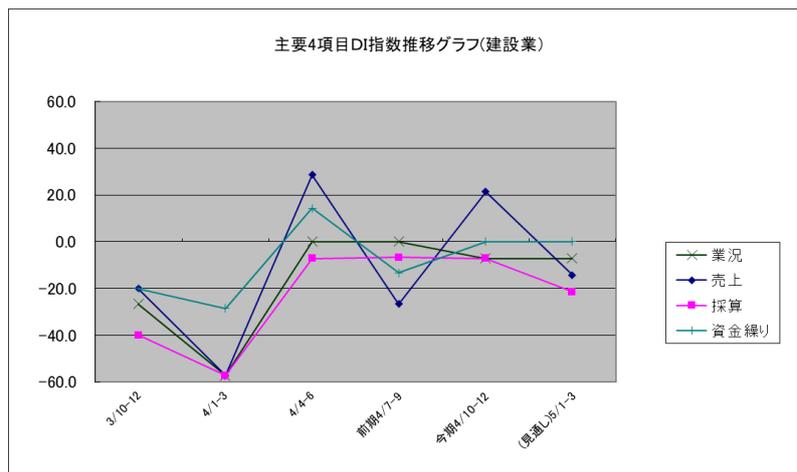


建設業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の±0が今四半期は▲7へと悪化した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲27から今四半期は+21へと大幅に改善したものの、「採算」については▲7に留まっており、採算の「水準」については+27から+21へとプラス幅がさらに縮小している。「資金繰り」については、前四半期の▲13から今四半期は±0へ改善しているものの、現場からは資材価格やエネルギー費の高騰への悲痛な声も聞こえてくる。

「従業員」は前四半期の+53から今四半期は10へ改善したものの、依然として+43と高い値を示しており、慢性的な人手不足に苦労している様子に変わりはない。

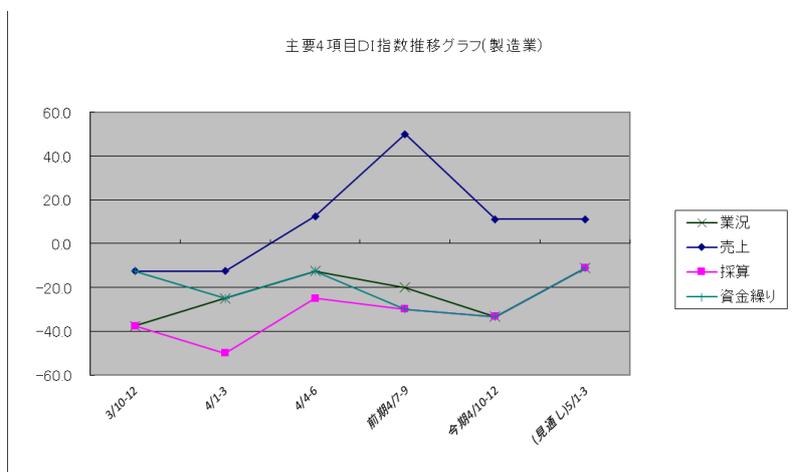
売上拡大のプラス面の評価よりも、採算やその水準の伸び悩みに加えて、原材料や石油価格の高騰や慢性的な人材不足などが、業況判断に影響している様子が見えてくる。



製造業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲20から今四半期は▲33へとさらに悪化している。個別指標をみると、「売上」は前期の+50から+11へとプラス幅が大幅に縮小している。「採算」についても▲30から▲33へと小幅悪化している。半導体の入手難や原材料高の価格転嫁が遅れなどによる全国的な製造業の景況悪化が当地域の製造業にも影響を及ぼしているものとみられる。「資金繰り」についても▲30から▲33へと悪化しており、コロナ融資の返済負担の増加に加えて、売上減少と採算の悪化もあり資金繰りに苦労している状況が見えてくる。

「従業員」については、前四半期の+20から今四半期は+22となり、人手不足感は若干高まってきているとみられる。



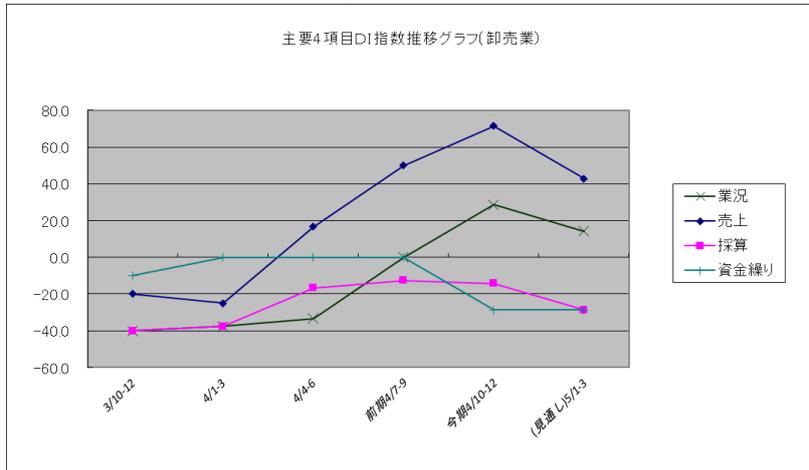
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期±0 から今四半期は+29 へと大幅改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+50 から今四半期はさらに改善して+71 となり、プラス幅が拡大した。「採算」については、前四半期の▲13 から▲14 へ足踏み状態となっている。

「資金繰り」については、前四半期の±0 から今四半期は▲29 となり、売上拡大に伴う運転資金の確保に苦労している状況がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+63 から今四半期は+14 と、人手不足感は大幅に緩和している。

コロナ禍の抑制と経済活動の両立が進む中、売上増加の傾向は続いているものの人員の手当は順調に進んでいる様子もみてとれる。



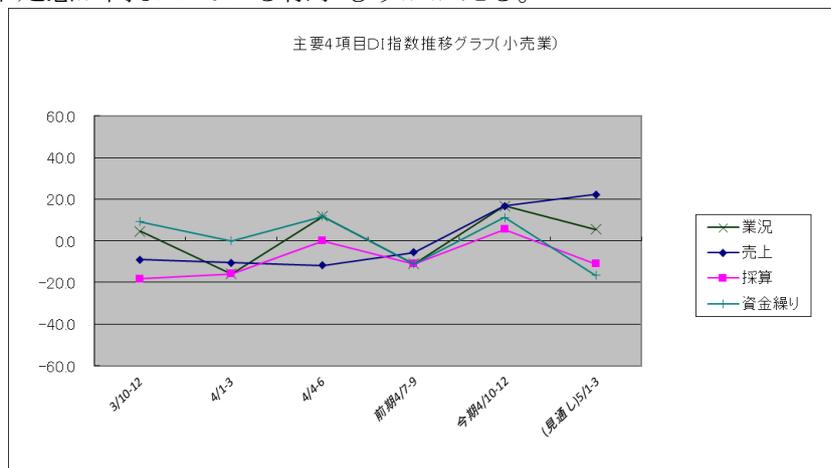
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲11 から今四半期は+17 へと大幅に改善し、再びプラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は▲6 から+17 へと大幅改善し、「採算」についても▲11 から+6 へ、また採算の「水準」についても▲6 から+22 へと大幅改善しており、売上と採算面の両面での改善が業況判断 DI の大幅改善につながっていると思われる。

商品不足やコロナ禍による購買力の低下など経営面での負荷の増大に悩む中、一方では、「小企業だからこそ可能となる自社の強みを活かして事業展開を図る」という動きも現場の声からうかがえる。

「資金繰り」は前四半期の▲11 から今四半期は+11 へと改善しており、売上と採算の改善が資金繰りに余裕をもたらしている様子が見て取れる。

「従業員」は前四半期の+11 から今四半期は+17 となり、売上拡大に伴う仕事量の増加によって人手不足感が高まっている様子もうかがえる。

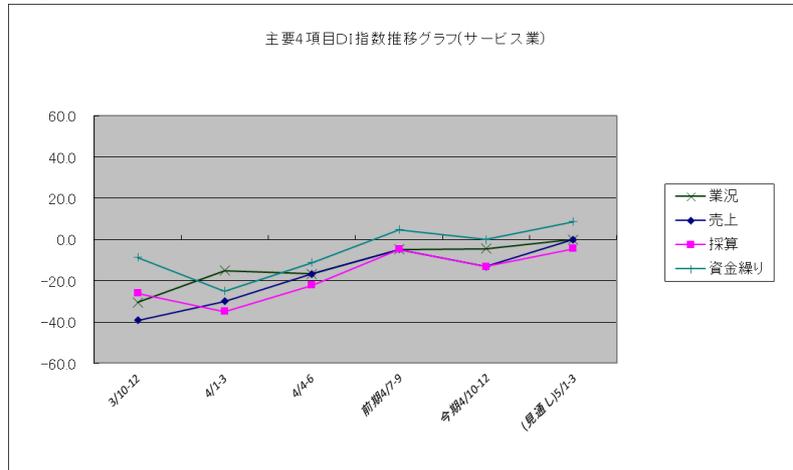


サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲5 から今四半期は▲4 へと足踏み状態となっている。個別指標をみると、「売上」は▲5 から▲13 へと悪化しており、「採算」も▲5 から▲13 へと悪化した。「資金繰り」についても前四半期の+5 から今四半期は±0 へと悪化した。

コロナ禍の抑制や経済活動の再開が進み、卸売業や小売業での復調の兆しがうかがえる中、サービス業においてはまだまだその効果が表れていない現状が見て取れる。

「従業員」は前四半期の+33 から今四半期は+39 となり、さらに人手不足感が高まってきているとみられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の±0を維持するとみている。個別指標をみると、「売上」は+13から+9へと小幅悪化するとみている。「採算」については▲10から▲13へ、採算の「水準」についても+21から+17と小幅悪化するとみている。「従業員」については+30から+27へと、人手不足感は若干緩和するとみている。滋賀県全体の有効求人倍率は1倍付近を推移しているが、建築・土木関係では5倍以上、接客・給仕では3.8倍になっており、業種により状況が異なることに注意が必要である。

業種別の「業況」DIでは、今期大幅改善を示した卸売業や小売業は、その反動で、卸売業は今期の+29から+14へ、小売業は今期の+17から+6へとプラス幅が縮小するとみている。一方で、製造業は▲33から▲11へ、サービス業も▲4から±0へと改善するとみており、四半期ごとに業況判断が揺れ動く不安定な状況となっている。

コロナ禍の抑制効果と経済の活発化による業況改善の動きがある一方で、ウクライナ情勢や世界的な原油や原材料の高騰、円安による価格高騰、販売価格への転嫁遅れなど不安定要素が重なり、依然として業種や業態ごとに先の見通しが揺れ動いている状況が見て取れる。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は23%で、3ヵ月前の33%から10%低下しており、設備投資意欲はさらに低下した状態となっている。業種別では、卸売業が3ヵ月前の50%から今期は14%と大きく低下しており、製造業も60%から44%へ、建設業も33%から14%へ、小売業も17%から14%と低下している。サービス業については、業況の回復を見越してか、29%から30%へと、ほぼ現状維持となっている。

投資内容の割合は、「設備更新」が47%で最も多く、老朽化設備の入れ替えは必要と判断していると思われる。「合理化・省力化」については3ヵ月前の29%から今期は26%となったものの、「生産力増強」については、3ヵ月前の14%が今期は16%となり、売上の回復が設備投資計画の前向きな検討に結び付いている兆しも見受けられる。

一方で、投資方針は「計画通り」が3ヵ月前の63%が今期は75%となり、「景気により見直す」が37%から19%となり、計画を持つ事業者は投資を積極的に進める姿勢もうかがえる。

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 難しい時代で、変化が読めないから、今できる自社の強みを強化していく事が大事だと感じている。小規模企業だからできる事、小規模企業でないとできない事をコツコツと磨いていきたいと思う。(小売業)
- ・ 仕入れ商品が不足しており売上につながらない。(小売業)
- ・ コロナは一応落ち着いてきたことは良いが、3年間の需要低下により購買力がもどってこない(不要なもの・不要なこと・今までの慣例事をやめる人が多い)。ものを買う・使うことをやめる人が多い。特に高齢者に購買力がなくなった。経済が全体的に回復するか疑問。
(小売業)
- ・ 中小企業向け融資で経営者が個人で背負う「経営者保証」の慣行が見直される。金融機関はアイデアを評価して融資するなどこれまで以上に経営者を深く見ていくだろうが、「新しい資本主義」実行計画における国の方針として良いことだ。(サービス業)
- ・ 商品の値段を上げても需要が滞らないように経済を回していかないと大不況になる。
(サービス業)
- ・ 我々旅行会社は、只今全国旅行支援の策により忙しくなっているが、コロナ前の水準にはまだまだという感じでとらえている。(サービス業)
- ・ コロナ禍が一段落するまで、民間ゼロゼロ融資などの返済負担軽減策をお願いしたい。
(サービス業)
- ・ 資材の高騰が止まらない。資材が無いよりはマシであるが、利益がなくなってしまう。
(建設業)
- ・ ガソリン価格の値上げが当社にとって苦しいと感じている。(建設業)

以 上

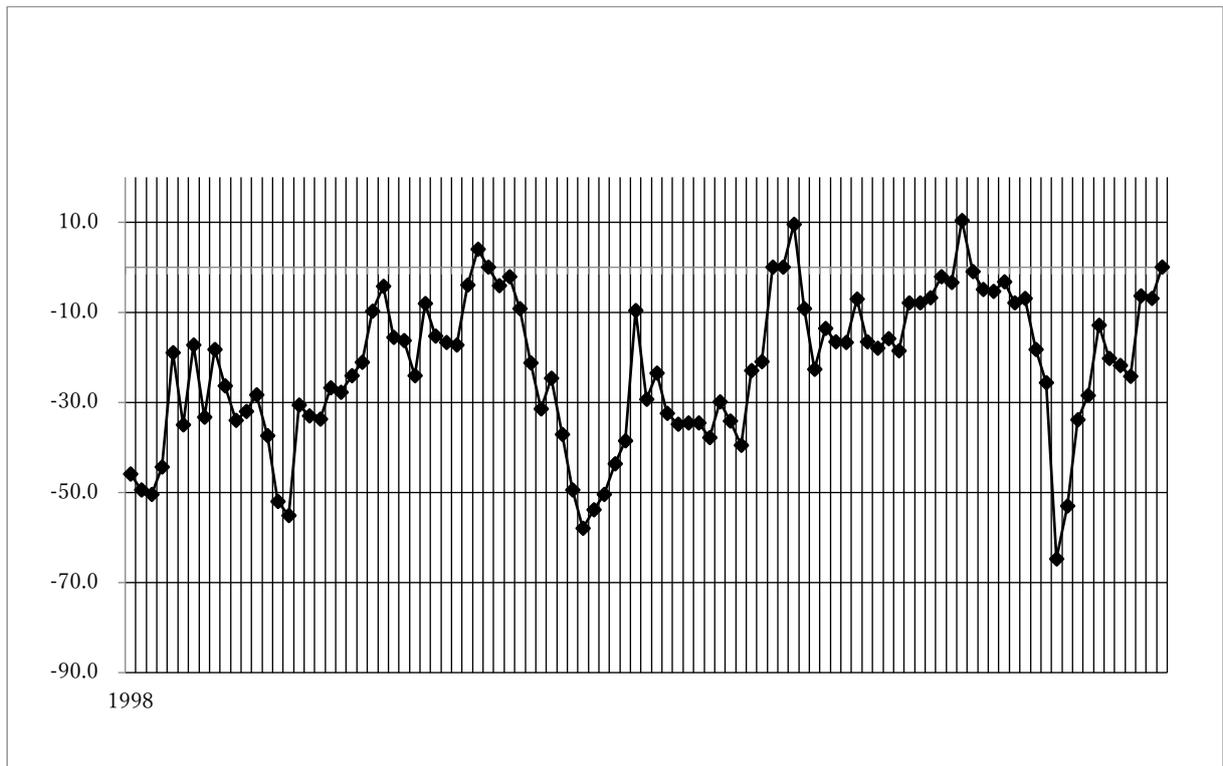
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	0.0	0.0	12.7	8.5	▲9.9	▲12.7
建 設 業	▲7.1	▲7.1	21.4	▲14.3	▲7.1	▲21.4
製 造 業	▲33.3	▲11.1	11.1	11.1	▲33.3	▲11.1
卸 売 業	28.6	14.3	71.4	42.9	▲14.3	▲28.6
小 売 業	16.7	5.6	16.7	22.2	5.6	▲11.1
サービス業	▲4.3	0.0	▲13.0	0.0	▲13.0	▲4.3
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	21.1	16.9	▲5.6	▲4.2	29.6	26.8
建 設 業	21.4	35.7	14.3	0.0	42.9	42.9
製 造 業	11.1	22.2	▲11.1	0.0	22.2	22.2
卸 売 業	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
小 売 業	22.2	5.6	▲5.6	▲5.6	16.7	16.7
サービス業	17.4	17.4	▲17.4	▲8.7	39.1	34.8
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲4.2	▲5.6	1.4	0.0	1.4	▲1.4
建設業	0.0	0.0	7.1	7.1	14.3	14.3
製造業	▲33.3	▲11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1
卸売業	▲28.6	▲28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	11.1	▲16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	▲8.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>